

令和7年度後期 東予東中学校学校評価結果と改善策

西条市立東予東中学校

【学校生活】

○生活

「楽しく学校生活を送ることができている」の項目では、肯定的な回答が生徒94%、保護者91%、教職員の肯定的回答も100%となっており、生徒、保護者、教職員共に、9割以上が肯定的回答となっている。一方「いじめやいたずらでいやな思いをしていない」の項目では、肯定的な回答の生徒は94%、保護者85%で、いやな思いをしていると回答した生徒は2%(-1)、保護者8%(±0)となっている。「楽しくない」「いやな思いをしている」の具体的な回答には、「受験勉強」「友人関係」「部活動」などが見られる。アンケート結果を教職員全体で真摯に受け止めるとともに、生徒一人一人に対するきめ細かな対応を心掛けていきたい。

○学習

「分からないところを先生や友達に相談している」では87%(-1)の生徒が分からない問題について解決を図ろうとしているが、保護者32%(+4)が「そうは思わない」という結果であった。教職員が、質問しやすい環境をつくるとともに、生徒自身も「主体的に学びに向かう力」を育成し、自分で何が分かっているのかを把握し、「分からない」ところを「分かる」に変えられるように、自分からアクションを起こせる生徒の育成を目指さなければならない。

「落ち着いた雰囲気で授業ができている」では、保護者の肯定的な回答は87%(+6)、教員100%、生徒70%(+5)となっている。否定的な回答は生徒19%(-3)となっているが、依然として2割の生徒が「落ち着いた雰囲気ではない」と答えている。

○情報公開

保護者の80%(-8)が「ホームページや学校だよりをよく見ている」と回答した。ホームページはほぼ毎日更新しているので、今後もホームページや学校だよりを充実させ、様々な面から学校生活の様子を発信していき、地域から信頼される学校づくりの一翼を担いたい。

○部活動

「部活動は日々充実し、自分のためになっている」の問いに、実感していると答えた生徒が81%(-3)、保護者80%(-10)だった。回答を読み解いてみると、「過度な身体的・時間的負担」「人間関係と心理的プレッシャー」「指導体制への不信感」を示しているものがある。部活動ガイドラインや完全下校の徹底、過度な勝利至上主義からの脱却を図りながら、部活動内の人間関係を注視していく必要がある。

【家庭生活】

○挨拶

本校の重点目標の一つとして「明るい挨拶」を掲げているが、81%(-2)の保護者が、生徒たちは地域でよく挨拶をしていると感じており、生徒たちも92%(±0)が挨拶をしていると答えている。生徒会による挨拶運動や、学級委員会による挨拶チェックなど、今後も挨拶の励行に努めていきたい。

○進路

「家庭で学校の様子や将来の進路、生き方について話をしている」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒は78%(+6)、保護者のアンケートで、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は合わせて88%(±0)だった。1年生も職業調べや高校調べなどを行い、将来の進路について具体的な考えを持ち始めている結果が出ていると考えられる。

○学習

「家庭学習の一日平均時間」についての生徒の回答は、「2時間以上」が18%(+6)、「1時間以上2時間未満」は42%(+3)、「1時間未満」は29%(-9)、「していない」は12%(+1)であった。家庭での学習習慣が定着するように、宿題の質の向上、工夫、改善を行ってきた結果だと思われる。

「家庭でゲーム機やスマホの利用についてのルールや約束ごとを決め、守っている」の項目では、15%(+2)の生徒、38%(±0)の保護者が「そう思わない」と答えており、状況は変わっていない。昨今はゲーム感覚で学べるアプリや、ICTを活用した学習方法なども存在し、一概にこれらの機器の使用を控えさせる必要はないかもしれないが、ゲーム障害の問題、SNSの危険性など、ルールを決めて、それを守り、自らの安全を確保することは重要なことである。引き続き、啓発に努めていきたい。

○交通

「交通ルール(登下校中の並進をしない・ヘルメット着用等のルール)を守れている」については、生徒94%(+1)、保護者98%(±0)と高水準の結果となった。昨年度は自転車での事故が多発したため、今年度前期に交通安全教室を実施し、学級での交通マナーの確認などを行ったことが効果を発揮しているものと考えられる。今後も啓発や見守りを続け、交通マナー向上を目指していきたい。

○朝食

学校全体としては「朝食を毎日とる」という基本的な生活習慣は年間を通じて高い水準で維持されている。しかし、2年生や3年生において後期に「そう思わない」という回答がわずかに増え、4%(+2)の生徒、6%(±0)の保護者が朝食を毎日とはっていないという結果となった。これは、学年末や受験期に向けた生活リズムの変化、夜型の生活への移行などが影響している可能性が考えられる。注視していくとともに、家庭への啓発を続けていきたい。

アンケート結果の反省を生かし、今後も更に良い教育活動を行っていけるよう、努力していきたい。学校生活の様子の見守りを日々継続し、必要に応じて保護者や関係機関、地域にも協力をお願いして指導していきたい。